

平成23年行政事業レビューシート

(厚生労働省)

事業名	総合化学物質安全性研究費 (生活環境暴露評価基盤研究費)		担当部局庁	国立医薬品食品衛生研究所		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成8年度		担当課室	総務部会計課		渡邊 裕一		
会計区分	一般会計		施策名	VI-3-4 国立試験研究機関の適正かつ効果的な運営を確保する				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—		関係する計画、通知等	—				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	家庭用品等に由来する化学物質の生活環境中環境濃度データを収集し、暴露評価に資するためのデータベースの構築並びに維持を目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	参加地方衛生研究所の所在地域に在住する一般市民の生活環境を対象として、 (1) 当研究所に設置した暴露評価委員会での討議を踏まえて選定された化学物質を対象に、参加地方衛生研究所において一般居住環境での試料採取を行う。 (2) 当研究所において採取試料中の化学物質濃度の測定並びに室内環境での多経路暴露解析を実施し、データベースとして情報を集積する。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	/					
		繰越し等	/					
		計	12	12	9	9	8	
	執行額	12	12	9	/			
	執行率(%)	100%	100%	100%	/			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)	
	調査検体数及び測定項目数		成果実績 検体x項目	延べ1,260	延べ1,232	延べ2,550	延べ2,500	
			達成度	%	100%	100%	100%	/
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込	
	調査従事者数		活動実績 (当初見込み)	人	2	2	2	—
						(2)	(2)	
単位当たりコスト	3,500 (円/延べ検体・項目)		算出根拠	平成22年度予算額/平成22年度成果実績数				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	諸謝金	0.3	0.3					
	職員旅費	0.5	0.5					
	委員等旅費	0.1	0.1					
	試験研究費	8	8					
計	9	8						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	×	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	・研究機器の賃貸借について、動作環境の互換性を維持する必要から当該業者以外には行うことができないため、随意契約を締結した。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、種々の基準策定・改訂に向けてリスク評価を行う際に必要不可欠な化学物質の暴露量に関する情報を取得するための調査事業であり、各年度の計画にしたがって適切にデータの集積が行われている。 ・執行管理表により支出先及び使途等について管理を行い、経費の適切な執行に努めている。 		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	生活環境暴露評価基盤研究費について、恒常的に多額の不用が生じているわけではないものの、執行実態を精査のうえ効率化を図ること。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
事業実績を踏まえ、事業に必要な経費を精査し、消耗品費の見直しを行った。 (反映額: ▲0.1百万円)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成22年度実績を記入

国立医薬品食品衛生研究所
9百万円

【随意契約】

A NTTファイナンス(株)
3百万円

研究機器の賃貸借

事務費 6百万円

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

A.NTTファイナンス(株)			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
借料	研究機器の賃貸借	3			
計		3	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につい
 て記載する。費目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	NTTファイナンス(株)	研究機器の賃貸借	3	随意契約	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					